

経済学部(経済学科)の三つのポリシー

【 学士(経済学) 】

大学の目的 (学則 第3条)		学部(学科)の教育研究上の目的	
<p>本学は、地域と世界に向かって開かれた大学として、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化、人間社会と自然環境との調和的発展に寄与することを目的とする。</p>		<p>個人を尊重する共生の精神を基礎に、地域と世界に向かって開かれた大学として、社会科学の諸分野を総合した特色ある学術研究を行うとともに、経済社会の制度やメカニズムに対する深い理解と関連する社会科学諸分野に及ぶ幅広い知識を備え、持続可能な国際・地域社会の構築に貢献できる人材を養成する。</p>	
ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー	
<p>【卒業認定・学位授与方針】 経済学部経済学科では、本学科の目的に基づき所定の課程を修了し、以下に示す「幅広い知識」、「専門的学識」、「問題発見・解決力」、「社会貢献力」、「コミュニケーション能力」を身に付けた者に、学士(経済学)の学位を授与する。</p>	<p>【教育課程編成方針】 経済学科では、卒業認定・学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた5つの能力を身に付けさせるため、経済学を中心としながら、経営学や法学分野も含めた体系的な学修が可能となるよう教育課程を編成する。</p> <p>【教育課程実施方針】 ・1年次においては、幅広い知識を備えた人材を育成するために、教養教育を実施する。経済学科では、広い視野から専門的学識の形成を図るため、経済、経営、法律分野の導入科目を必修科目として実施する。 また、後学期からは、少人数型学習の導入教育として入門ゼミナールを実施する。</p> <p>・2年次からは、幅広い知識と専門的学識を体系的に身に付けさせるため、学生の関心や希望する進路に応じて学科横断的な「社会データサイエンス」「地域公共政策」「社会経済」のいずれかの履修コースに所属させる。 また、複雑な社会を自分自身で考える力を身に付けさせるため、専門教育科目(基礎・発展)を幅広く体系的に実施する。さらに、昼間主コースでは、コミュニケーション能力を身に付けさせるため、必修科目として、前学期に基礎ゼミナールを、後学期からは専門ゼミナールを実施する。</p> <p>・3年次では、より専門的な知識とともに、ディスカッション能力やプレゼンテーション能力など社会人として必要なコミュニケーション能力を獲得させ、社会に貢献できる力を醸成するため、2年次に引き続き専門ゼミナールを必修科目として実施する。</p> <p>・4年次においては、より高い水準の問題発見力・解決力を身に付けさせるため、専門ゼミナールを必修科目として実施するとともに卒業論文を完成させる。</p> <p>・夜間主コースにおいても、上記の教育課程編成方針や実施方針の基本を踏襲する。(基礎ゼミナール、履修コース制は昼間主のみ。また夜間主では卒業論文は選択)</p>	<p>【入学者受入れの全体方針】 経済学部では、社会科学の分野に興味・関心を持ち、次のような能力を身に付けて積極的に地域・国際社会に貢献する意欲がある人材を求める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決能力や創造力 ・幅広い知識や専門的知識の修得 ・他者及び多様な文化を持つ者とのコミュニケーション能力 <p>【入学者選抜の基本方針(入試種別とその評価方法)】 一般選抜(前期日程) 大学入学共通テストでは、高等学校卒業レベルの理解力を備えた人を選抜する。 本学では「英語」又は「数学」を課し、経済学部で学ぶために必要な論理的思考力と表現力を評価する。</p> <p>一般選抜(後期日程) 大学入学共通テストでは、高等学校卒業レベルの理解力を備えた人を選抜する。 本学では「小論文」を課し、社会科学的思考力と文章表現力を評価する。</p> <p>総合型選抜 本学が実施する第1次選抜(書類審査(自己推薦書、調査書))、小論文及び面接では、学習到達度、社会科学的思考力、表現力、コミュニケーション能力、社会問題への関心度、積極性及び判断力を評価する。第1次選抜合格者に対して、大学入学共通テストを課し、国語、数学及び英語の基礎学力を評価する。</p> <p>特別選抜(学校推薦型選抜、帰国生徒選抜、社会人選抜) 本学で「小論文」を課し、社会科学的思考力及び文章表現力を評価する。また、「面接」を課し、社会問題への関心度、表現力、積極性及び判断力を評価する。</p> <p>私費外国人留学生選抜 日本留学試験では、日本語能力、論理的思考力及び数学の基礎学力を評価する。 本学では「小論文」を課し、社会科学的思考力及び文章表現力を評価する。また、「面接」を課し、社会問題への関心度、表現力、積極性及び判断力を評価する。</p> <p>【入学前に学習すべきこと】 高等学校までに学ぶ国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語について、十分な基礎学力を身に付けておくこと。更に、創造力、責任感、コミュニケーション能力及び問題発見能力を身に付けておくこと。</p>	
【学修成果の到達目標】		【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
幅広い知識	<p>【学修成果】 社会、自然、文化に関する幅広い教養を持った知識人として、多様な文化的・歴史的背景を持った地域、社会について、その理解に常に努める姿勢を身に付けている。</p> <p>【到達目標】 教養教育科目、共通科目の単位修得、隣接分野の専門教育科目の単位修得</p>	<p>【学修内容】 幅広い知識を身に付けるため、人文・自然諸科学の知識と語学を学修する。 基礎から応用までの理論系の科目、制度や歴史を視点とする科目、経済データを統計学的に分析する科目、地域や特定の問題に焦点を当てた科目など幅広い視点から経済を学ぶ。</p> <p>【学修方法】 講義形式の授業によって学修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 講義中の質疑応答、課題レポートの執筆及び期末試験等により、到達度を客観的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 幅広い知識を獲得するための必要な基礎学力と、学ぼうとする意欲</p>
専門的学識	<p>【学修成果】 基礎から応用までの経済理論、制度及び歴史を視点とする洞察力、並びに経済データを統計的手法を用いて分析する能力と柔軟・的確な判断力を身に付けている。</p> <p>【到達目標】 導入・基礎・発展までの専門教育科目を体系的に履修し、幅広い専門知識を十分に修得している。</p>	<p>【学修内容】 専門的学識を身に付けさせるために、経済学の諸領域で蓄積された知識を体系的に学ぶ。</p> <p>【学修方法】 講義形式の授業によって、専門知識を効率よく学修する。 専門ゼミナールにおける能動学修によって、専門知識を主体的に学ぶ。</p> <p>【学修成果の評価方法】 講義中の質疑応答、課題レポートの執筆内容及び期末試験等により、学修の到達度を客観的に評価する。 演習については、専門的知識修得のための課題への取り組み及び成果発表等により、客観的に評価する。 卒業論文は、審査によって評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 専門的学識を獲得するために、必要な基礎的学力と論理的・数理的思考能力や英語能力、あるいは入学後にこれらを身に付けようとする意欲</p>

ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
【学修成果の到達目標】		【学修内容, 学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
問題発見・ 解決力	<p>【学修成果】 失業、地域格差、財政赤字などのような国内の問題から、発展途上国における貧困や地球規模での環境などの問題まで、社会が抱える多様な問題の解決策を創造する力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 専門基礎(導入)科目の単位修得、専門教育科目の単位修得、専門ゼミナールの単位修得、卒業論文の単位修得(昼間主のみ)</p>	<p>【学修内容】 論理的思考力と分析力を身に付けさせるために、1年次の入門ゼミナールにおいて学術的なレポートの書き方を学ぶ。 基礎から応用までの理論系の科目、制度や歴史を視点とする科目、経済データを統計的に分析する科目、地域や特定の問題に焦点を当てた科目の学修を通じて、多様な視点から経済社会が抱える問題を学ぶ。 卒業論文の執筆を通じた研究活動によって、問題発見力・解決能力を身に付ける。</p> <p>【学修方法】 講義形式とゼミナール形式を中心としつつ、アクティブラーニングやPBL型学修も取り入れ、問題発見・解決力の涵養を図る。</p> <p>【学修成果の評価方法】 講義中の質疑応答、課題レポートの執筆内容及び期末試験等により、学修の到達度を客観的に評価する。 演習については、専門的知識修得のための課題への取り組み及び成果発表等により、客観的に評価する。 卒業論文は、審査によって評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 国内外において社会が抱える多様な問題と、その解決策を学ぼうとする意欲</p>
社会貢献力	<p>【学修成果】 経済社会の一員であることを認識し、人間の行動が経済に及ぼす結果を予測し、経済人として自らが果たすべき役割を遂行できる能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 教養教育科目の単位修得、専門基礎(導入)科目の単位修得、専門教育科目の単位修得、キャリア形成科目の修得</p>	<p>【学修内容】 広い視野から社会における自己の役割や他者への責任を果たす能力を身に付けるため、人文・自然科学や外国語を学ぶ。 社会人としての責任感を身に付けるため、専門教育科目やキャリア形成科目の学修や交換留学を経験する。 インターンシップ等のキャリア形成科目によって、社会における経済の仕組みを実践的に学び、専門的学識をもって社会に貢献する力を身に付ける。</p> <p>【学修方法】 パソコンを利用した経済分析処理を実習形式で学修する。 国際社会の発展に貢献できるグローバル人材となることを目指し、専門教育科目を英語で学修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 教養教育科目の単位修得、専門基礎科目の単位修得、専門科目の単位修得、キャリア形成科目の単位修得をもって目標に到達したと評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 経済学科で学んだことを社会で活かし、広く社会の要請に応えようとする意欲</p>
コミュニケーション能力	<p>【学修成果】 他者との議論を通して、明確な問題意識から結論に至る論理を構築し、自己の考えをプレゼンテーションする能力を身に付けている。そのための手段として、情報機器によるデータの処理、通信ネットワークを利用したコミュニケーション、また外国語による情報の獲得及び発信を行う能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 専門基礎科目、入門ゼミナール、基礎ゼミナール、専門ゼミナールの単位修得</p>	<p>【学修内容】 1年次から4年次までのゼミナールにおいて、プレゼンテーションや議論の技法を学修する。 英語による講義を行い、国際社会における英語によるコミュニケーション能力を養う。</p> <p>【学修方法】 1年次から4年次までのゼミナールにおける演習形式で、コミュニケーションの能力を身に付ける。 国内・海外の大学における学生による研究集会を通して、実践的なプレゼンテーション能力を身に付ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験等により到達度を客観的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 自らの考えを表現する能力と、他者と積極的にコミュニケーションを取ろうとする意欲</p>